

# 法政就業力通信

## ～今月のさんぽ道～

法政大学  
「就業力を育てる3ステップシステム」  
プロジェクト  
<http://3step.hosei.ac.jp/>

文部科学省『大学生の就業力育成支援事業(就業力GP)』採択プロジェクト

## 情報の質・量を判断材料に！

特任教員 有田 五郎 (ありた ごろう)

### アルバイトは得か？

現代の学生にとってアルバイトをする事は日常生活の一部となっています。各自の環境・状況などからそれを否定するものではありません。彼らは、「良い社会経験をしている」とか「お客様の笑顔の為に」「“ありがとう”の言葉にやりがいを感じる」などと頑張っています。しかし、アルバイト三昧にはまっている学生達は本当に得をしているのでしょうか？ 私は「もったいない」という想いを禁じえません。それは「時間ももったいない」ということです。

### 「情報」を比較する

アルバイトの現場でどれだけの情報と接しているかを考えてみましょう。組織の末端で、お客様と直接接する市場からの情報窓口となっています。しかし、経営側からの情報は皆無に近い状態なのです。そこに居る正社員への限られた情報の一部を伝えられて業務にあたっているからです。これでは状況判断が偏ってしまう可能性があります。一方、大学での部活動・サークル活動はどうでしょうか？ 組織全体の情報が共有されて活動が展開されていきます。新入生は先輩に指示されて動きますが、学年を重ねるにつれて自分が情報を取り、考えて、動く立場へととなります。小さな単位でも情報に対して能動的な態度が不可欠、自然と身に付く活動となっています。

### 「授業」を活用する

では、大学での授業はどうでしょうか？ ゼミは取組む対象が違とはいえ、部活動やサークル活動と同様に組織体として運営する必要があります。毎日の講義は情報収集から自分の行動実践までを一人でやる形態です。導いてくれるのは担当教員とテキストだけです。ここでただ授業に出るだけの学生と、授業でしっかりノートを取り、分からない事を質問したり自分で調べたりする姿勢があるかではっきり差が出てきます。このように大学での生活を「あたりまえ」に積み重ねる事が就業力に繋がります。とはいえ、勉強ばかりでは息がつかまります。学び・遊び・アルバイトそれらをどうバランスするかを考え、実行する事が自分を高める一番の近道だと考えます。

### 新入社員は情報量を認識する

せっかく就職しても3年以内に辞めてしまう「七五三現象」が危惧されています。職場では人間関係を選べない、それに我慢出来ないのも一因ですがもう一つに「自分への情報量」認識不足があります。いくらベストの提案をしても、それは自分に与えられた情報をベースとしてという前提が存在します。これを認識出来ずに、組織や上司に不満をぶつけるケースが多く見られます。この様に在学中・就職後それぞれの立場で情報の質・量を見極める姿勢が求められる事を伝える活動を推進しています。



#### 略歴

70年慶応義塾大学経済学部卒。

70~06年 伊藤忠商事(株)勤務

06~11年 帝京大学、  
法政大学職員。

11年~ 法政大学教員



**略歴** 84年名古屋大学大学院卒。京都大学博士(経済学)。84~89年京都大学経済研究所助手、90~97年滋賀大学経済学部助教授・教授。97年~03年法政大学経営学部教授、04年~IM研究科教授。

## 教育と医療の基盤は信頼関係

**教授 藤村 博之 (ふじむら ひろゆき プロジェクトリーダー)**

サービス業は、顧客に快適さを提供することで収入を得ています。レストランは、おいしい料理を給仕して顧客の要求を満たそうとしますし、美容院は髪を整えることで顧客に満足を与えています。

教育と医療も広い意味のサービス業ですが、他の業種とは決定的に異なる点があります。それは、顧客に努力を求める(場合によっては強いる)ことです。病気を治そうと思ったら、食べるものを制限したり、つらいリハビリに耐えたりしなければなりません。顧客のわがままを満たしていたのでは、本来の役割が果たせません。教育も同じです。

「つらいけれども先生の言うとおりにしよう」と患者や学生が考えるのは、医師や教師を信頼しているからです。「この先生の言うことを聞けば何とかなる」と思うからです。学生との信頼関係をどうつくるかが教育の原点だと思います。



**略歴** 法政大学大学院経営学研究科キャリアデザイン学専攻(修士)卒業後、法政大学大学院政策創造研究科博士後期課程に進学。2011年3月、同博士課程中退。

## 大学教育は、“力”を養っている

**特任教員 白井 章詞 (しらい しょうじ)**

後期の授業は、エリクソンのライフサイクル論を手がかりにしたキャリア研究を実施します。実施するにあたり、学生同士で研究計画を発表し、質問の仕方、話の聞き方、メモの採り方なども学んでいます。学生の受講感想には、「人との関わり方を学んでいると思った」「コミュニケーションには、小さな気配りが大切なんだと気づいた」「社会に出てからも使える」といった反応がありました。彼らが実際に調査へ行くのはこれからですが、それでも、改めて大学教育を通して多くの力が養われていることを実感しました。ゼミに所属する前段階にあるからこそ、授業や課題を通して、自ら問いをたてて調べることや、理論に照らし合わせて考えてみることの面白さに少しでも触れてもらいたいと思っています。



**略歴**：日米ハイテク企業での営業・人事を経て人事コンサルタントとして独立。キャリアカウンセラー資格取得後は多くの大学でキャリア論の講師を務める。

## 就業力につながる教員のキャリア談

**特任教員 鈴木 美伸 (すずき よしのぶ)**

複数の大学でキャリア論の講義を行うなかで、何処の学生でも一番興味をもって聴くのは、ゲスト講師による職業体験談です。私の講義では単なるオムニバス講演会にならぬように、学生のキャリアモデルとして参考になる社会人を選抜招聘しております。日頃、居眠りをしているような学生が真剣に聴講している姿は、あたかも幼子が母親の昔話を楽しみにしているようです。翻ってみて、指導教員のキャリアを受講学生はどの程度知っているのでしょうか？成績の評価等は説明されていると思いますが、その講義の面白さ、教員自身の研究分野についての熱い想いや体験談を語られることは少ないようです。就業力育成の第一歩は、その講義に一番熱心な学徒である教員のキャリアを教えることではないかと思うこの頃です。

### ◆ 各種プログラムを開催いたします。

#### ■ 未内定者向けプログラム

就職活動中の4年生を対象に、五輪メダリストのメンタルコーチ他に学ぶコーチング法を用いた就職支援プログラム「就活コーチングセミナー」と、自己分析、エントリーシート、面接、マナーなどあらゆる角度からこれまでの就職活動を振り返り、これからの活動の対策を行う「秋の就職活動対策講座」を10月下旬より行います。

#### ■ 「就業力育成セミナー」

もうすぐ“新入社員”となる4年生を対象に、入社前に働くために必要な基礎知識を身に付け、就業力をアップさせて社会人のスタートに備える「就業力育成セミナー」が本学エクステンション・カレッジで行われます。

### ◆ 編集後記：

PTA主催のお祭りのお役目で、文書作成の機会が結構ありました。他のお父さんのそれを見ると、その人の会社の「様式」を感じます。実際、会社で身に付ける場合が多いのですが、「大学で教わった」ことが、こんな場面でも成果として出るといいなと思います。(焼きそば担当のH) << 事務局：細田 >>

「就業力を育てる3ステップシステム」プロジェクト (事務局：学務部教育支援課)

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL: 03-3264-9520 WEB: <http://3step.hosei.ac.jp/>